

親切のお返し

千葉県 豊畑小学校 4年 井上 夢菜

「すみません。」

冬の寒い日でした。私の家の前で、若い外国の女性に声をかけられました。女性は大きな荷物を持っていて、けいたい電話の地図を見ながらどこかに行きたいようで、道をたずねてきたのです。

地図には「研修センター」と書いてあり、学校の近くでした。駅から歩いてきたという女性は、とてもつかれているようでした。道を説明しましたが、日本がよくわからないようでした。私も家族も英語が話せないので、身ぶり手ぶりで説明しましたが、時間ばかりすぎてしまいました。そこでお母さんが、荷物も重いだろうし、入口までならと車に乗せて送ってあげることにしました。

車の中でその女性は、アジアの国から来たこと、一人で不安だったけど日本人にたくさん助けてもらったことを話してくれました。

研修センターの前まで送ると、女性は何度も何度も「アリガトウゴザイマシタ」と頭を下げていました。

前に校長先生から、「学校の近くにいろいろな国の人たちが農業の勉強に来ています」というお話がありました。私はそのことを思い出し、この女性もきっと日本に勉強をしに来たんだと思いました。

研修センターには、いろいろな国から勉強に来ている人がたくさん住んでいます。最初は、少しこわいという気持ちがありました。でも、私の家の前を歩いて通ることもあり、「コンニチハ」と言ってくれたり、研修センターの前にある神社を毎日、ほうきやくまででそうじをして、夏の暑い日でも、道の草とりやどぶのそうじもしてくれているのを見て、こわいという気持ちは少しずつなくなっていきました。

いろいろな国から集まっているんだから、食べるものも言葉もちがうのに、みんなで力を合わせてそうじや草とりをしてくれている。日本で教えてもらっているから、きっとそのおん返しなのかなと、私は思いました。

私たち日本人も、自分の住んでいるところを大切にしようという気持ちを、もっともたなくてはいけないと思います。

これから日本に来る外国の方は、もっとふえてくると思います。知らない国に来る方はとても不安な気持ちをもっているのです。少しでも私たちの日本に来てよかったなと思ってもらえるように、手助けができるといいなと思いました。